

## フジノハナガイ *Donax semigranosus* Dunker

### 【選定理由】

個体群・個体数の減少、生息条件の悪化が選定理由としてあげられる。外洋に生息するイメージが強いが、内湾域にも広く分布していた種 (木村, 2012)。1980年代後半に伊勢湾・三河湾の内湾域で個体数が激減し、全く生息が確認できなくなった場所も多い。現在、知多半島、渥美半島の伊勢湾沿岸などでは回復傾向が認められるが、三重県側の伊勢湾の回復状況には及ばない。三河湾では湾口部以外の沿岸では依然として回復傾向は認められない。渥美半島外海側では生息地が散見されるが、将来的に絶滅危惧に移行する危険性がある種と評価された。

### 【形態】

殻長 20 mm 程度に成長するが、現在では 15 mm 前後の個体が多い。殻は亜三角形で、膨らみは弱い。殻質は厚い。殻表は光沢があり、白色、淡黄白色、淡褐色、薄紫色など個体変異が多い。殻の内側は濃い藤色に彩られる個体が多い。



南知多町内海海岸, 2000年9月16日, (矢印は殻が見えないほど深く埋もれた個体の水管を示す), 木村昭一採集

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

愛知県内の分布域は比較的広く、知多半島・渥美半島の伊勢湾沿岸、渥美半島の遠州灘沿岸域のほぼ全域に分布するが、生貝が確認されている場所は少ない。近年、知多半島南部内海海岸周辺では、冬季に海岸に生貝が多数打ち上がることが確認されている。

#### 【世界および国内の分布】

日本、中国大陸、タイに分布する。国内では、房総半島から九州までの内湾から外洋域の砂質底の潮間帯に生息する。三浦半島沿岸や玄界灘沿岸の外洋に開けた内湾域では安定した個体群が確認されている (木村, 2012)。

### 【生息地の環境／生態的特性】

内湾から外洋にかけての潮間帯上部の砂底に生息する。潮汐の周期に連動した垂直移動をする貝として有名である (木村, 2012)。内湾域では、潮通しが良く有機質や泥分が少ない砂質底を好むようである。

### 【現在の生息状況／減少の要因】

現在の生息状況については、【選定理由】の項参照。減少の要因としては、内湾域の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していること等があげられる。本種の場合、特に底質の有機質、泥分の増加も減少の要因として考えられる。

### 【保全上の留意点】

現在本種が生息確認される海域の環境を維持することが重要である。特に、本種の生息基盤としての有機質、泥分の少ない潮間帯の砂底の保全が重要であろう。

### 【引用文献】

木村昭一, 2012. フジノハナガイ, p.130. in: 日本ベントス学会(編), 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285 pp. 東海大学出版会, 秦野市.

### 【関連文献】

鈴木孝男・木村昭一・木村妙子・森 敬介・多留聖典, 2013. 干潟生物調査ガイドブック 全国版 (南西諸島を除く), 269pp. 日本国際湿地保全連合, 東京.

(木村昭一)